理窓教育会報
第 68 号
2026 年 10 月 1 日
東京理科大学理窓教育会
事務局 PORTA 神楽坂 6 階

巻頭言　『全国教育大会に参加して』

理窓教育会会長　富岡　康夫(48 理・化)

今年の夏に主に高等学校教員向けの二つの全国教育大会に参加しました。両方の団体で顧問をしています。

一つ目は、令和８年（2026 年）８月４日(火)～６日(木)の令和８年度（2026 年度）全国理科教育大会・第９７回日本理化学協会総会 新潟大会です。 「探究心を育む理科教育」 ―地域産業との連携で探る、新たな価値の創造に向けての大会主題で、会場は刃物の町、新潟県三条市にある三条市立大学での開催でした。参加者は約３５０人程です。本学も協賛団体として後援しています。記念講演は開催大学の「DX の本当の意味は何か、DX 実践ラボの取り組み」と題して学長のアハメド・シャリフ氏が行いました。「理科教育の役割は、科学を教えることではなく、未来を創造する人を育てることである」とし、「想像力（Imagination）、創造性（Creativity）、好奇心（Curiosity）と「なぜだろう」と問いを育てるマインドセットが育てる資質であると熱く述べていました。文部科学省講話、研究協議７分科会、研究発表３６件が設定されていました。文部科学省講話は理科担当小林一人教科調査官で「科学的に探究する資質能力を育てる理科教育」と題した内容で、次期学習指導要領を意識した内容でした。研究発表は本学理学部化学科井上正之教授研究室の方々も２件発表されていました。全国理科教育大会来年は神奈川県で、日程は 2027 年８月 19 日(木) ～ 21 日(土)で、会場は青山学院

二つ目は、令和８年(2026 年) ８月７日(金)～８日(土)の第 19 回全国高等学校情報研究会全国大会(神奈川大会)です。「今、改めて情報教育の本質を考える～情報科の力の結集～」が大会主題でした。会場は、神奈川県六角橋の神奈川大学キャンパスです。参加者は約６５０人程です。大会実行委員長は同窓の柴田功神奈川県立百合丘高等学校校長先生です。文部科学省講話は情報教育担当の須藤祥代教科調査官でした。高等学校の情報教育は 1999 年の学習指導要領改定により 2003 年度から教科情報が新設され、科目「情報 A」、「情報 B」、「情報 C」の中から 1 科目が選択必履修でした。2013 年度は「社会と情報」、「情報の科学」になり選択必履修でした。2022 年度から現行で、「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」となり、「情報Ⅰ」が必履修です。現在の変化の激しい時代に突入し、GIGA スクール構想、生徒一人一台端末、DX ハイスクール、AI の世界的普及が課題となります。全国高等学校情報教育研究大会、2027 年度は島根県で開催されます。全国の情報教育関係者が一堂に会し、講演、研究発表、協議、情報交換等を行います。これからの教科「情報」の在り方及び課題解決の方策を探り、実践的な指導力の向上を図ることが目的です。

二つの全国大会に参加して、現在の学校教育の今後の方向性を受け止めることができました。

第１号議案　　令和７年度　活動報告

1. 東京理科大学理窓教育会総会

令和７年度も、「書面総会」の形式で実施した。各支部長に下記の事項の議案を送付し、意見等をアンケートの形で回答してもらった（アンケートの集約日は、令和７年６月末）。それを本部で集計し、会報第 66 号に詳細を掲載し書面で承認を得た。

① 令和6年度の会務報告及び会計報告。
② 令和7年度の活動計画及び予算案。
③ 理窓教育会理事会などは、コロナ禍の経験を生かしZoom配信の形で実施した。但し、5月26日（日）理事会は書面総会に向けて、理科大において対面で実施した。

2. 組織の充実、強化に関して（各支部の努力・工夫で徐々に活動が始まりました）

① 各支部の活動状況（21支部からの活動報告） 以下は、会報67号からのまとめです。

・北海道支部総会（能登啓児支部長から、9/28 に開催した。広域な地域性があり厳しいが有意義な時間を共有したい。）
・青森支部総会（村本卓支部長から、総会は 9/20 実施できた。恒例の「おもしろサイエンス」も 8 月に開催した。 ）
・岩手支部総会（佐藤尚支部長から、11 月に総会を実施した。13 名の参加。父母会の方との交流など頑張っていきたい。）
・秋田支部総会（長岐康彦支部長から、秋田支部との連携で総会を実施。県として若手が少しずつ増えている。）
・群馬支部総会（新井高広支部長から、11/22 群馬支部総会と共催、群馬にゆかりある同窓生のつながりに努力していきたい。）
・埼玉支部総会（小久保守支部長から、7 月埼玉支部総会と共催、講演会では学校 DX などの研修を行った。）
・東京支部総会（富岡康夫支部長から、5 月対面の総会を実施。管理職面接研修に取組む。午後、支部と共催し懇親会を開催。）
・千葉支部総会（中村孝幸教職員部会長から、8 月に実施した。総勢 59 名参加。新人教員・学生も参加し活性化してきた。）
・山梨支部総会（橘田多喜夫支部長から、山梨支部総会と合同で 10/18 に実施。参加が増えるよう確認した。）
・信州支部総会（清水史明支部長から、10 月に支部総会と合同で開催。教職職をアピールするなど努力したい。）
・富山支部総会（近藤智久支部長から、8/9 に富山支部と重ねて開催３１名参加。これからも一人でも多くの参加を募りたい。）
・福井支部総会（油谷泉支部長から、11 月に実施。教育会独自の活動ができるよう努力したい。他の教育会を参考にしたい。）
・石川支部総会（鈴木啓泰支部長から、本部支部長さんの立場から報告をいただきました。感謝申し上げます。総務より。）
・滋賀支部総会（池田健一支部長から、支部総会は 6/1 実施。教員の参加は厳しが頑張って教員を目指す学生を支援したい。
・岡山支部総会（三浦康男支部長から、支部と合同で開催。教育は重要であり、市教育長２名が理科大なので相談している。）
・広島支部総会（板倉宏治支部長から、9/28 合同で開催。教育会活動も進めている。今後も他支部を参考に努力したい。）
・鳥取支部総会（倉光博史支部長から、支部総会は少人数の中実施。教育会は厳しいが維持発展に努めたい。）
・徳島支部総会（濱本寛信支部長から、11/1 実施。支部にて教育関係者の掘り起こしに努めたい。）
・佐賀支部総会（吉山耕一郎支部長から、2/15 に開催。本部支部活動に合わせて、教育会を進めたい。）
・熊本支部総会（光永幸生支部長から、昨年２月教育会全国支部長情報交換会で得たことを参考に支部総会と合同で行った。）
・宮崎県支部総会（児玉康裕支部長から、教員採用試験の出願者の確保を目的に様々な活動を考え進めている。）

② 会報発行（今年度もコロナ禍を考慮し、少人数で集まり発送作業を行った）

・第 65 号　令和 7 年 4 月 発行　（会員個々に郵送）　・第 66 号　令和 7 年 10 月 発行　（会員個々に郵送したが、令和８年度からは、４月発行の春号は郵送するが、10 月の秋号は理窓会ホームページの中、関係団体の教育会ホームページの掲載となります。）

3. 大学との新たな連携事業

① 大学との高大連携への協力

今年度も令和４年度より大学側より依頼を受け、教育会として情報提供に寄与した。現在、「東京理科大学同窓教員ネットワーク『TUS Linkage』」への加入を進行中である。

② 第１6回「坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト」の運営にかかわり今年度も、分野別審査会へ60名の協力及び対面発表会への支援。その内、若手の現職教員を10名に働きかけ協力体制で臨むことができた。

4.　その他の活動（教育会主催）

① 編集委員会

・令和７年７月　第 66 号の発行について　・令和８年１月　第 67 号の発行について

② 「若手教員ネットワークの会」について

・10/26（日）ホームカミングデーと別日、教育会として第５回「研修会・懇談会」を実施した。参加者は、若手教員 24 名、教育会 OB が 18 名。合計 42 名であった。昨年は 43 名の参加。

・2026 年度新学部（学科）設置にかかわる文科省調査に全面協力し取り組みに寄与した。

③ 全国教育会支部長Zoom会の開催：2025年2月16日（日）午後7時に実施。2026年２月15日（日）に２回目を実施した。参加支部の内訳（北海道・岩手・秋田・埼玉・東京・千葉・神奈川・信州（長野）・石川・滋賀・徳島・熊本・宮崎・鹿児島の14支部長）。

第2号議案　令和7年度　会計報告（案）

令和　7年度　会計

（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

［収入の部］

科　目	予　算	収入	比較増減
前年度繰越金	14,028	14,028	0
納入会費	225,000	297,865	72,865
郵貯利子	0	119	119
理窓会正会員協力金	0	0	0
支部長会費会計から補填	170,000	170,000	0
合　計	409,028	482,012	72,984

［支出の部］

科　目	予　算	支出	比較増減
交通費	45,000	47,000	−2,000
慶弔費	10,000	0	10,000
会議費	0	0	0
支部長会積立金	0	0	0
事務費	16,000	13,620	2,380
会報2回の印刷費，封筒代	175,000	203,390	−28,390
全国会員への会報等の郵送費	130,000	126,916	3,084
HPページ更新,オンライン活用等	20,000	0	20,000
会長交流費	0	0	0
予備費	13,028	0	13,028
小　計	409,028	390,926	18,102
次年度繰越金		91,086	
合　計	409,028	482,012	−72,984

※ 納入会費　1,500円×210口ー（口座徴収料金 17,135 円）＝297,865 円

[口座徴収料金内訳 152×74人+203×29人=17,135円]

第4号議案　令和8年度　予算(案)

令和　8年度　予算

（令和8年4月1日～令和9年3月31日）

［収入の部］

科　目	予　算
前年度繰越金	91,086
納入会費	255,000
理窓会正会員協力金	0
支部長会費会計から補填	0
合　計	346,086

［支出の部］

科　目	予　算
交通費	50,000
慶弔費	10,000
会議費	0
支部長会積立金	0
事務費	16,000
会報印刷費等	130,000
全国会員への郵送費等	80,000
HPページ更新,オンライン活用等	20,000
会長交流費	0
予備費	40,086
合　計	346,086

※ 令和8年度予算案　納入会費（1,500 円×170 口=255,000 円）予定，　理窓会正会員協力金　なし

※ 令和8年度予算案　支部長会費会計より，補填　なし

※地区別支部長会費会計報告及び令和8年度予算(案)

令和7年度 会計

（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

[収入の部]

科　　目	予 算	収入	比較増減
前年度繰越金	662,951	662,951	0
本年度会計より	0	0	0
郵貯利子	250	898	648
合　計	663,201	663,849	648

[支出の部]

科　　目	予 算	支出	比較増減
地区別支部長会費	250,000	0	250,000
令和7年度教育会会計への補填	170,000	170,000	0
予備費	243,201	0	243,201
小　計	663,201	170,000	493,201
次年度繰越金		493,849	
合　計	663,201	663,849	−648

令和8年度　予算

（令和8年4月1日～令和9年3月31日）

[収入の部]

科　目	予 算
前年度繰越金	493,849
本年度会計より	0
郵貯利子	500
合　計	494,349

[支出の部]

科　目	予 算
地区別支部長会費	250000
令和8年度教育会会計への補填	0
予備費	244,349
合　計	494,349

会　　計 ：（各担当理事） 齋藤 常男　竹村 精治　臼田 三知永　平岡 盛仁　長野 基　澁谷 重雄

監査の結果，正確・適正であることを認めます．

令和 8 年 5 月 15 日　　監 査　　細川 秀夫　田村 清志　小久保 守

第３号議案　　令和 8 年度　活動計画（案）

1. 東京理科大学理窓教育会総会

令和 8 年度理窓教育会総会は、「書面総会」方式とする。例年と同様に各支部長に議案を送付し、意見等をアンケートの形で回答してもらう。それを本部で集計し、会報第 68 号に詳細を掲載して、書面で承認をしてもらうこととする。なお、令和 8 年度本部（教育会）総会は、対面方式で実施する。

令和 8 年度の目標：今年度もオンラインを活用した交流会ができるよう各支部長のアドレス集約に尽力するとともにネットワーク化を推進し、理窓教育会の充実と活性化を図る努力を継続する。

2. 各支部総会

各支部の令和 7 年度実施状況を、会報第 67 号（令和 8 年 4 月発送予定）に掲載する。

3. 地区別支部長会

地区別支部長会は、現実的には実施できず、10 数年以上前から書面総会として実施されてきた。地区別支部長会を開催する場合、各支部長さんへの旅費などの補助ができないことが、一つの大きな理由であり、実施できないのが現状である。令和 8 年度も**昨年度同様に Zoom を活用した全国支部長会を開催する**。

4. 広報活動

・第 67 号（春号）は、会員個々へクロネコ便で会費納入振込用紙を添えて郵送する。しかし、<u>第 68 号（秋号）は、理窓会本部関係団体（教育会）のホームページへの掲載とする</u>。<u>振込用紙は春号のみとなるので是非、会費納入をお願いしたい。是非とも、経費節減の関係でご協力をお願いしたい。今年も現在の教育会のホームページを整備に努める。また、全国 Zoom 支部長会議などでも意見を求めたい</u>。

・各地区支部長 Zoom 会の開催について、昨年度、第一回目が開催できた。しかし、現時点では 24 地区で留まっている現状を拡大できるよう各地区理窓会と連携し組織を拡大させる。

・これまで本部支部総会と各地区教育会活動がともに協働しているが、教育会活動に活かす努力をする。

・令和 8 年度も予算案の支出科目で新規に「ホームページ更新、オンライン活用等」とし、20,000 円を計上したことを受けて広報活動の活性化の具体化を図る。

5. 財政の健全化に向けて

① 令和 2 年 4 月、郵便料金の値上げから会費が 1,000 円から 1,500 円となった。このことで、会費の納入に関しては、従来通りの方式「赤色振込伝票」による振り込みとなった。各支部では、本部への年会費（1 名あたり 1,500 円）の納入の呼びかけを一層進め財政の健全化を目指す。

② 各支部においては、若手教員など会員の加入促進の工夫に努めて、支部の活性化を図るため、できるところから Zoom 配信等を活用し、情報交換会に取り組む。

6. 会員の拡大

春号を同窓の教員に会報を送付し、オンラインなどを用いた会員の交流を広げ、会員の拡大を図る。

7. 大学との協力促進

① 教員希望学生への指導、採用試験等の情報提供については従来通り実施し、多くの後輩が教職に就けるよう協力する。また、キャリアセンター（就職課）ガイダンス、面接指導への講師派遣、教育センター講座への講師派遣等の協力をする。

ア. 趣旨に賛同し、その募金活動を継続推進する。

② 大学の学生募集の協力

高大連携を含み学生募集広報に協力する。

③ 公立学校採用第二次選考試験及び私学採用試験対策講座等への面接指導講師派遣に協力。

④ ホームカミングデー運営への協力（実施日：2026 年 11 月 1 日（日）神楽坂キャンパスにて）

本部、会長が交代となる年に当たり、第 21 回ホームカミングデーの企画が検討される予定である。このことについては、本部ホームページに随時、情報が発出されるので教育会として、寄与できるように取り組んでいきたい。

⑤ 「第 17 回坊っちゃん科学賞」の審査・発表会への協力。対面方式で実施する。会場は今年度と同じく、神楽坂キャンパスで計画、実施日は 11 月 8 日（日）午後 1 時開会の予定。会場：理科大神楽坂キャンパス 211 教室。

8. 若手教員ネットワークの継続化

Zoom 配信による幹事会を継続化し、ネットワーク会の全体交流会・研修会などの開催を目指す。
また、大学の方針の 1 つ高大連携の活動に寄与できるように努力する。具体的日程は、10 月 25 日（日）とする。

（ ※ 誌面の都合で、議案が前後しております。ご了解ください。）

□ 大学からのお知らせ □

今まで 5 月に行っておりました「同窓高校長懇談会」ですが、今年はバージョンアップして、下記のとおり HCD に合わせ、同窓中高教員向けのワークショップと同窓校長対象の懇談会を開催します。理科大の最新情報をゲットできますので、奮ってご参加ください。（写真↓は、HP より引用）



本学卒業・修了生の中学・高校教員・校長の皆さまへ

中学・高校同窓教員
ネットワーク＆ワークショップ

開催時間	11:00～13:30
開催場所	8号館5階・理窓会倶楽部
会費	1,000円（当日受付にて）

プログラム詳細・申込 ›

理窓教育会 総会報告

2026（令和 8）年度の理窓教育会は、昨年度と同様に「書面総会」の方式をとらせていただきました。従いまして、議案に対するアンケート形式を採り、全国支部長の皆様の意向を集約させていただきました。

◎ 集約の結果は以下の通りです。

回答のあった支部数　23　（昨年度 19）

1 号議案	賛成	23	反対	0	白票	0
2 号議案	賛成	23	反対	0	白票	0
3 号議案	賛成	23	反対	0	白票	0
4 号議案	賛成	23	反対	0	白票	0

議案に対する意見ではなくその他として、

『現在、本県では人口減が激しく高校数、生徒数も大変な状況であり、県立高校すべてで来年度入試より県外受験生 OK という状況です。総会、会員数もほぼなく、県をまたいでても考える時期かと考えます。単県ではなかなか難しい状況です。教員も地元からはなかなか難しく、理大への入学者も減です。』　という切実なお話をいただきました。

以上、2026（令和 8）年度総会は、各支部長など皆様のご協力により、無事終了させていただくことができました。皆様方のご理解とご協力に厚くお礼申し上げます。

令和８年度 理窓教育会 書面総会に向けての理事会・役員会

総務理事　松原秀成（S45 理・物）

下の写真が、令和 8 年 5 月 24 日（日）に神楽坂キャンパス 3 号館の教室を活用し実施された書面総会に向けての理事会・役員会になります。

この理事会・役員会に於いて「第 1 号議案、2 号議案・3 号議案・4 号議案」が協議されました。その後、全国（都道府県）の支部長先生に案件が郵送されました。その結果が前出のようになり、本年度ご返信をいただいた支部さんが 23 支部あったということになります。理窓会の関係団体として全国組織を維持し活動している団体は他にはないようです。これも一重に各支部の皆様のご協力・ご理解のお陰だといえるのではないでしょうか。

教育会の諸活動は、年会費（1500 円）で賄われております。人口減などで児童生徒数は減少するばかりですが、教育会の全国組織のネットワークが少しでも繋がれるように引き続き努力して参りたいと思います。

そこで、2 年前から全国支部長 Zoom 会議をはじめました。3 回目を 2027 年 2 月 21 日（日）に実施させていただく予定です。支部長さんの交代もあるかと思いますがどうぞよろしくお願い致します。

ご連絡はすべてメールで行います。昨年度までの支部長さんはメールで繋がっているのですが、滞っている場合は松原までお知らせいただけると幸甚です。松原のアドレス：

hidenari.matsubara@gmail.com にお知らせください。

結びに、本会報についてお願いとお知らせをさせていただきます。今年度から会報発送は、4 月付け春号は、郵送させていただきますが、10 月付け秋号の発送は郵送いたしません。理窓会本部ホームページ内の関係団体「理窓教育会」への掲載となります。どうぞよろしくお願い致します。最後にお願いです。教育会の運営は皆様からいただく年会費で成り立っております。会費納入の「振り込み用紙（払込取扱票（赤色用紙））」は、春号の年一回のみとなります。是非ともにご理解をいただき、会費の納入を重ねてよろしくお願い申し上げます。



㊗ 管理職への昇格

令和８（2026）年度の人事異動で、多くの同窓教員の皆様が管理職に昇格されました。心からお祝いを申し上げます。ますますのご活躍を！

【北海道】

高橋宏明（H3 理）北海道教育庁教育指導官

宮本幸紀（H4 理数）北海道豊富高校・長

【秋田】

阿部義弘（S58 理物）鹿角市教育長

荒川正明（S63 理工数）教育庁高校教育課
管理チーム

岩見　進（H9 理工数）県教育庁高校教育課
高校改革推進チーム

【群馬】
中村健一（H3 理応化）藤岡中央高校・長
折田直樹（H13 理工修数）渋川高校・長
【埼玉】
鯨井智己（H13 理工数）狭山特別支援学校・長
斉藤俊晃（H8 理工数）県立越谷西高校・長
野澤優太（H20 理数教育専）朝霞西高校・頭
【東京】
升田佳佑（H20 理数）都教育委員会指導主事
鈴木健太（H20 理数）都立南葛飾高・副校長
【神奈川】
原　淳一（H23 理化）県教育委員会指導主事
【山梨】
清水　健（H3 理数）笛吹市立三坂中学校・長
望月英宏（H9 理応数）市川三郷町立市川中学校・頭
藤森一樹（H4 理工数）県立中央高校・頭
土屋雅崇（H8 理応数）県教育委員会主幹
小澤一仁（H12 院物）県教育委員会指導主事
【長野】
清水史明（S63 理工工）県教育委員会指導主事
中村充秀（H 元理工数）佐久平総合高・副校長
小林雄一（H５理工数）県高校教育課管理係長
柗村将生（H11 理工数）中野立志舘定・教頭
【石川】
荻野　隆（H4 基工電）県立加賀聖城高校・長
矢部篤雄（S63 理応数）県立小松工業高校・長
【富山】
近藤智久（S60 理化）高岡市教育総合センター所長
【岡山】
仁科　康（S55 理応数）倉敷市教育委員会教育長
萩原康正（S59 理工数）瀬戸内市教育委員会教育長
鳥越昭正（H13 理数）県立倉敷南高校・長
【広島】
部屋　聡（H9 理数）県立尾道商業高校・長
中原健次（S62 理工物）県立総合技術高校・長
【徳島】
楠　俊弘（H9 理数）県立池田高校（定）・頭
【大分】
石松一彦（H7 理化）臼杵市立南野津小学校・頭
長野雄一郎（H９理専物）別府市立亀川小学校・頭
【佐賀】
大島恒平（H9 理数）佐賀県教育委員会・指導主幹
【熊本】
光永幸生（S61 理工数）私立熊本マリスト学園・長

※ 以上、名簿到着の都道府県の昇任者（異動を含む）を掲載します。この他にも管理職に昇任された方がいらっしゃいましたら、事務局にお知らせください。

理窓会行事

全国支部長会／代議員総会 報告

常務委員　松本　明（S57 理・数）

代議員総会に先立ち、6 月 28 日（日）午前 11 時から、神楽坂キャンパス 1 号館 17 階の会議室において、全国支部長会が開催された。

前年度の「ブロックの支部長同士の絆をより深めたい」というご要望から、ブロックごとに着席して、昼食を摂りながら和やかに情報交換を行なっていただいた。

会議では主に、本部で制定した新たな補助金制度について、改めて目的や基準に関する説明があり了解を得た。

多くの支部が、参加会員の高齢化や若手会員の減少など支部活動の活性化にご苦労されている様子が報告された。

「全国支部長会に参加して、どの支部も同じような苦労があることがわかった。」、「他支部の工夫や若手会員を増やすヒントをいただくことができた。早速、実行してみたい。」などといった感想も寄せられ、有意義な時間となった。



同日午後 1 時より、 1 号館 17 階記念講堂において「代議員総会」が開催された。はじめに浜本隆之理事長よりご挨拶をいただき、続いて伊藤稔理窓会会長が所信表明を行った。



議事に入る前に、議場出席代議員 110 名、書面出席 63 名の確認があり、代議員総会の成立が宣言された。議長は、昨年に続いて、広島県支部長の前眞一郎氏が選出された。

第 1 号議案：2025 年度事業報告
第 2 号議案：2025 年度収支決算・監査報告
第 3 号議案：理窓会倶楽部に関する件
第 4 号議案：2026 年度事業計画
第 5 号議案：2026 年度理窓会予算案

第 6 号議案：理窓会会則変更に関する件
第 7 号議案：顧問委嘱に関する件
が上程され、すべて賛成多数で議決された。

その後、以下の５点の報告があった。
・第 21 回ホームカミングデー（11 月 1 日）
・坊ちゃん科学賞コンテスト（11 月 8 日）
・HP および SNS の活用について
・『理窓』の発行について
・理窓会坊ちゃん賞について



最後に、3 月でご勇退された増渕忠行前会長に、浜本理事長より感謝状と記念品が贈呈された。

代議員総会終了後、８号館学生食堂ホールに移動して「同窓懇親会」が開催された。石川正俊学長にもご出席いただいた。全国から集まった 100 名を超える代議員が一堂に会し、盛大で和やかな懇親会となった。

2025（令和 7）年度
第１６回「坊ちゃん科学賞 研究論文コンテスト」報告

実行委員長　松原秀成（S45 理・物）







上の 3 枚の写真は、「第 16 回坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト」の様子になります。

【開催日時・会場】
〇令和 7 年 1 1 月 9 日（日）午後 1 時開始
〇東京理科大学 2 号館 211 教室（階段教室）

今回から、審査委員長が秋山仁先生から渡辺一之先生にバトンが引き継がれました。秋山先生には、初回から第 15 回コンテストまで長年にわたり審査委員長をお務めくださり本コンテストの発展に貢献いただきました。心より感謝と御礼を申し上げます。

主催者である本学学長石川正俊先生は、今回もコンテスト開始から最後の閉会式まで高校生たちの研究発表を参観されました。2 枚目の写真が最優秀賞校への贈呈式の様子です。

ここで、渡辺一之先生（3 枚目の写真）をご紹介させていただきます。

【渡辺一之先生のご略歴】
・東京理科大学名誉教授
・元東京理科大学副学長
・現公益財団法人・物理オリンピック日本委員会・副理事長

【第 16 回最優秀賞校・優秀賞校の紹介】
〔最優秀賞校：1 校〕
＊愛媛県立松山南高等学校
研究テーマ：下敷変形時の発生音に関する研究
〔優秀賞校：4 校〕
＊東京科学大学附属科学技術高等学校
研究テーマ：酢酸菌が生成するセルロース膜を用いたイオン交換膜の作製と海水の淡水化
＊兵庫県立小野高等学校
研究テーマ：形態素解析と生成 AI の転移学習を用いた自動採点システムの開発
＊学校法人静岡理工科大学静岡北高等学校
研究テーマ：静岡県内で提唱されるトウヨシノボリ“池沼型”の分類
＊千葉県立柏高等学校
研究テーマ：支川から土砂の流入があった場合の本川での河床の変動
以上の 5 校が受賞されました。おめでとうございます。

第 16 回コンテストに応募された研究論文数等は次のとおりです。

・応募論文数：266 件
・参加生徒数：763 名
・指 導 教 諭：240 名
・参加高校数：114 校
・参加都道府県数：35

改めて関係の皆様に感謝と敬意を表します。

結びに、石川正俊学長先生には連続して４年間、開会から授賞式・閉会までご出席いただきました。今回も会場の参加高校生の皆さんに、研究の心構えや具体的方法など貴重なご指導をいただきました。高校生たちの目が輝いて聞いていました。そして、渡辺一之審査委員長先生はじめ、総合審査委員の先生方にも温かいご指導・ご助言をいただきました。実行委員会を代表しお礼申し上げます。

第 17 回坊ちゃん科学賞コンテスト開催！

・2026（令和 8）年 11 月 8 日（日）
午後１時開始
・東京理科大学神楽坂キャンパス
２号館 211 教室（階段教室）
・応募校は参観できますので、大学に足をお運びいただき、発表をご覧ください。

～　ここからは、教育現場で奮闘・活躍されている同窓生をご紹介いたします。若手（ホップ）、中堅（ステップ）、ベテラン（ジャンプ）の順で掲載します　～

（ホップ）新任教員の抱負

板橋区立志村第五中学校
教諭　姫井　佑朔
（R６理学部・数学科）

今年度、勤務校では「挑戦と創造」というテーマが掲げられています。この言葉を受け、私自身も一人の教員として生徒にどう向き合うべきかを改めて考えています。

現在、教育現場は大きな変化の渦中にあります。従来の知識伝達型から、生徒自らが目標を立てて学びを深める自己調整学習を取り入れたスタイルへの転換が進んでいます。また私自身、今年度からは校内の DX 推進業務も担当することになりました。母校で培った数学やテクノロジーの知見を活かせると期待を感じる一方、前例のない業務に取り組む難しさも実感する日々です。

新しい授業スタイルやツールを試す中では、思い通りにいかないことも少なくありません。しかし、そうした試行錯誤の過程を隠さず、生徒に見せることの大切さを感じています。子どもたちは大人が思う以上に教員の姿を見ています。完璧であろうとして失敗を隠すよりも、素直に認めて改善していく姿勢を見せる方が失敗しても次に繋げればいいという安心感を与えられるのではないかと考えています。

実際、授業でうまくいかなかった際に「次はこう工夫してみるね」と共有するようにしてから生徒たちも気負わずに新しい課題へ挑戦してくれるようになりました。

手探りで進める大変さはありますが、時代の変化に合わせて新しいやり方を模索していくプロセスには大きな面白さがあります。

大学で培った専門性や視点は、現場で新しい挑戦をする際の確かな土台になります。教職を目指す後輩の皆さんも、最初から完璧を目指す必要はありません。失敗を恐れず試行錯誤しながら生徒と共に成長していく姿勢こそが、これからの教育現場で求められているのだと感じています。

だからこそ、これからもテニス未経験のテニス部顧問としてコートで豪快にサーブを空振りする姿を生徒に見せ続けていく所存です。

☆　★　☆　★　☆　★　☆　★

横浜市立潮田中学校
教諭　佐藤　優月
（R７理学部・数学科）

令和７年４月から横浜市立潮田中学校に赴任し、今年で２年目を迎えました。昨年度は、１学年の副担任を務め、現在は２学年の担任を任せていただいています。また、部活動においては、昨年度より継続してマーチングバンド部の顧問を担当しています。

日々、生徒たちと共に過ごす中で、私自身も新鮮で学びの多い毎日を送っています。担任と副担任とでは、生徒に対する視野や視点が異なり、それぞれの立場から生徒の成長を見守ることの重要性を実感しました。

私は、生徒には「社会に出た時に困らないよう、当たり前のことを当たり前にできるようになってほしい。」という思いがあり、教職に就いています。そのために、社会のルールやマナー、人に迷惑をかけないことの大切さを日頃から生徒たちに伝えています。時には厳し

く個別に声をかけたり、学級通信を通してクラス全体へ発信したりと、模索を続ける日々です。しかし、声をかけたからといって、すぐに自分の行動を振り返ることができる生徒ばかりではありません。育ってきた環境や価値観も多様であるため、上手くいかないこともたくさんあります。そのため、毎回、伝え方や、伝えるアプローチの仕方、言葉選びなど工夫し、時には優しく寄り添いながら、試行錯誤を重ねる日々を送っています。

指導にあたって特に心がけていることは、「生徒自身の存在や人格を否定しない」ことです。生徒の行動の何がいけなかったのか、その「行為」に焦点を当てて具体的に伝えるよう意識しています。さらに「傾聴すること」を大切にしています。教員から一方的に問い詰めてしまうと、生徒が雰囲気に流されて思い込んでしまうこともあるため、可能な限り生徒自身の言葉で話してもらえるよう待つ姿勢を心がけています。

私自身、こうした伝え方や関わりを重ねることで、生徒たちは受け止める姿勢を学んでいき、時間をかけて信頼関係を築いていきます。信頼関係がなければ、生徒たちには何も伝わりません。大切な生徒一人一人と日々向き合い続け、教員として生徒と共に成長していきたいと思います。

☆　★　☆　★　☆　★　☆　★



県立幕張総合高等学校
教諭　沖埜　なつ美
（R８　理学部二部・数学科）

私は現在、千葉県立幕張総合高等学校で教員として勤務しています。大学を卒業し、教壇に立つようになってから、毎日が新しい発見と学びの連続です。

学生時代には教育実習や教職課程を通して教員の仕事について学んできましたが、実際に教員として働き始めると、授業づくりだけではなく、生徒指導や保護者対応、校務分掌など、多くの役割を担っていることを改めて実感しました。初めて経験することも多く、思うようにいかず悩むこともあります。しかし、そのたびに周囲の先生方から助言をいただき、支えていただきながら一歩ずつ成長しているところです。特に印象に残っているのは、生徒との関わりです。授業で理解できたときの表情や、何気ない会話の中で見せる成長した姿に触れると、教員という仕事のやりがいを強く感じます。一方で、一人ひとり異なる個性や考え方に向き合う難しさもあり、日々試行錯誤を重ねています。その中で、生徒を理解しようと努め、信頼関係を築くことの大切さを学びました。また、初任者研修や校内外の研修を通して、多くの先生方と交流する機会にも恵まれました。同じ立場の仲間と悩みや工夫を共有できることは大きな励みとなっています。教育現場を取り巻く環境は変化し続けていますが、学び続ける姿勢を大切にしながら、自分自身も成長していきたいと思っています。

東京理科大学で学んだ日々は、現在の教育活動の土台となっています。教科の専門性だけでなく、物事を論理的に考える姿勢や、挑戦する気持ちを培うことができました。これからも理科大卒業生としての誇りを胸に、生徒一人ひとりの可能性を伸ばせる教員を目指して努力していきたいと思います。教員としての歩みは始まったばかりですが、多くの方々への感謝を忘れず、初心を大切にしながら、一歩ずつ前進していきたいと思います。

☆　★　☆　★　☆　★　☆　★



新座市立新座中学校
教諭　大渕　響生
（R７年創域理工学部・数理科学科）

令和７年４月から中学校教員になり、今年度で早くも２年目を迎えました。今年度は、１学年の担任とバスケットボール部の顧問をやらせていただいております。教員になることは小学生の頃からの目標でした。お世話になった東京理科大学の先生方に深く感謝申し上げます。

昨年度は、副担任として、まずは学校の１年間の流れを体験することができました。教科指導についても、指導員の先生方や多くの先輩の先生方に手厚いアドバイスをいただきながら、多くの実践を重ねることができました。とても成長を感じた１年間でした。

今年度からは担任になりました。昨年度とは置かれる立場が変わったため、さまざまな業務への見え方も変わり、日々勉強しながら過ごしています。課題のある生徒が多い学年のため、いろいろな出来事が起こり、落ち込むこともありますが、それも良い経験と前向きに捉えるようにしています。生徒指導では、思い込みで決めつけないこと、行動には理由があると考えること、流れを他者に説明できるようにすることを主に心がけています。数学の授業では、一番に規律を整えることを大切にしています。もちろん楽しい授業を目指していますが、前提として、真面目に取り組みたい生徒が阻害されない雰囲気づくりが必要だと思うからです。授業の最初の５分間は基礎学習という名の復習で無言の時間を確実につくる、忘れ物は必ず授業前に申

告させる、席を立つときは要件をこちらに伝えに来させるなど、授業以前のことが多いですが、学力を伸ばすためには仕方ないと考えています。毎授業、ロイロノートを使って振り返りをさせて、リアルタイムで提出させています。部活動は地域展開が進み、負担が軽減されました。その分、練習メニューの考案や審判資格の取得に力を注いでいます。分掌については、主担当が増えたため、守備範囲を広げなければならず大変ですが、業務を抱えすぎずに分担する意識で取り組んでいます。まだまだ分からないことが多いので、困ったことがあったら先輩の先生方に相談するようにしています。特に段取りを組む場合は，３～４割の段階で先輩の先生方に共有しておき、心に余裕を持たせるようにしています。

思い通りにいかず悩むことが多い毎日ですが、学び続ける姿勢は忘れずに、理想の教師像を追い求めて、日々主体的に小さな工夫、そして努力を積み重ねていきたいと思います。

☆　★　☆　★　☆　★　☆　★

日本大学第二高等学校
教諭　直井　智士
（R５理学部・数学科）

私は今年で教員生活４年目になります。１年目は日本大学第三高等学校で非常勤講師をしました。日大三高は私の姉の母校だったためとても温かく迎えられ、いろんな先生方に支えていただきました。非常勤講師だったため授業や放課後のサポートに集中し、生徒と接する時間が非常に多く充実した１年間でした。また、自分自身でも授業力が飛躍的に上がった１年だと感じています。２年目からは自らの母校である日本大学第二高等学校で専任教諭となりました。初年度に担任は持たず、２年目に高校１年生、３年目（現在）に高校２年生の担任をしております。

現在は学級担任や教科指導の他に、生活指導係・教育実習の指導教諭・修学旅行の取りまとめ・高校入試の取りまとめ等の仕事をさせていただいています。特に修学旅行の取りまとめでは生徒のことや教員の配置などの「学校の中のこと」を考えるだけでなく、旅行業者等の「学校の外の人」と打ち合わせをしながらいろんな計画をしています。このことが自分自身にとって本当に大きな経験で自分自身を大きく成長させることができると確信しています。修学旅行の成功に向けてこれからも精一杯努めてまいります。

専任教諭になる前には「生徒と接する時間が減ってしまう…」とマイナスなイメージもありました。また、非常勤時代に比べて仕事量が格段に増え、教科指導を疎かにしていたこともありました。そんなタイミングで教育実習を担当することになり、実習の指導をしながら自分自身も他の先生や実習生の授業を見学させていただきました。そこで気づいたのは「教科指導に長けている先生はと生徒との信頼関係も厚い」ということです。授業はやり慣れている業務であり、繰り返すことです。そのため雑にやっても形にはなります。ですがそこを雑にすることというのは生徒と接する時間を雑にすることであり、それが生徒からの信頼をなくすことになるのだと感じます。

今、任せていただいている仕事はほんとうに貴重な経験で大切なことです。ですがもちろん授業も大切です。だからすべてのことに丁寧に全力で努めてまいりたいと思います。

（ステップ）中堅教員の金言



**「勝負単元で全員を
キラキラした表情に」**

平塚市立金目小学校
教諭　五十嵐　相和
（H22 理学部・数学科）

教師になり 16 年が経ち、もう中堅といわれるような存在になりました。事務仕事と授業準備で自転車操業の毎日です。しかし、どんなに忙しくても、授業の中で子ども達の「できた！」「分かった！」「もっとやりたい！」とキラキラさせた表情で言っている姿を見たら、頑張ってよかったと心から思えます。沢山の業務の中なので全ての教科・単元では厳しいですが、自分が決めたいくつかの単元では納得がいくまで教材研究をし、子ども達の思考の流れから修正していくような、【勝負単元】をつくっています。

例えば、４年生の社会科では下水処理を学習します。子ども達の疑問を引き出すような資料、下水処理場の方からの資料を用意し、問題解決学習を進めていきました。子ども達は下水処理に関わる知識を獲得していきますが、それはまだ深い理解とは言えず、自分事になっていない知識です。そこで授業の終盤に下水処理場の人が汚水を浴びながら、下水道の修理を行っている写真を提示しました。提示をしたとたんに子ども達は「汚い中でも頑張ってくれている」「私達のためにこんなことまでしてくれるのか」と反応するなど、驚きを隠せない状況でした。ここで初めて自分事のように考えられたと確信しました。

４年生の算数では長方形や正方形の面積の求め方の学習をします。A（縦８ｃｍ横３ｃｍの長方形）とB（一辺５ｃｍの正方形）の面積を比べさせました。予想をして話し合ったところ、案の定、面積の公式を知っている子はBと主張し、周りの長さで比べた子はAと主張しました。もう少し考えさせた後、C（縦 10ｃｍ横１ｃｍの長方形）を提示しました。こちらも提示したとたんに、「分かった！」「説明したい！」と何人も感嘆の声をあげていました。子ども達の説明から、周りの長さは面積にあまり関係ない（本当は最大値には関係あり）ことに行きつきました。

私は子ども達全員が輝く授業を目指して、日々教材研究をしています。（毎回は難しいですが…）まだ全員を達成したことはないので、これからも子ども達と関わりながら自己研鑽していきたいです。

☆　★　☆　★　☆　★　☆　★



「人と環境に恵まれた
教員生活」

恵泉女学園中学・高等学校
教諭　清野　慎太郎
（H28 理学部・数学科）

教員になり 11 年が経ちました。これまで 3 校の勤務を経て、現在は私立の女子中高一貫校である恵泉女学園中学・高等学校で数学と情報を担当しています。これまでの教員生活を振り返ると、自身の立場や任される役割は少しずつ変化してきました。

新卒で着任した 1 校目では、学級担任や教科指導を中心に、目の前の生徒一人ひとりと全力で向き合う日々を過ごしました。また、自身が続けてきた吹奏楽部の顧問を務め、コンクールで金賞を受賞するなど、生徒と喜怒哀楽をともにしながら汗を流したことが今でも深く心に残っています。

続く 2 校目では、PBL や探究学習に注力する環境に身を置きました。生徒とともに問いを深める面白さを知り、自身の教育観を大きく広げることができました。

そして現任校では、教務副部長や ICT 主任、文部科学省の「DX ハイスクール」関連の環境整備など、学校組織に関わる校務を中心に日々奮闘しています。周囲の先生方に温かく助けていただきながらではありますが、自身の視野を広げる成長の機会と捉え、何事にも前向きに取り組んできました。現在は生徒と直接関わる機会こそ減りましたが、環境整備や業務効率化を進めることが、生徒の学習環境や先生方の指導体制を支えることに繋がると信じ、責任感とやりがいを持って取り組んでいます。

どんな状況でも前進しようとする今の私のチャレンジ精神の原点は、これまでにいただいた多くの生徒や先生方との出会いにあります。さらに、理科大の同窓生をはじめとする他校の先生方の取り組みや熱い想いに触れるたび、「私も負けていられない」と大きなエネルギーとなっています。多様な視点や刺激を与えてくれる方々とのつながりは、どんな環境の変化も前向きに楽しむための支えであり、私にとってかけがえのない財産です。

これからも一つひとつの出会いと経験を大切に、楽しみながら新しい挑戦を続けてまいります。

（ジャンプ）同窓校長の識見

高校教育改革と未来への展望
～２０４０年の社会を見据えて～

神奈川県立鎌倉高等学校
校長　小島　嘉男
（S63 理学部・応用数学科）

今年度、神奈川県立総合教育センターより鎌倉高等学校に異動いたしました。本校は、神奈川県教育委員会から「学力向上進学重点校エントリー校」および「理数教育推進校」として指定され、学力向上と探究活動を軸とした先進的な教育を展開しています。さらに昨年度、これらの取組が評価され、文部科学省より「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」の指定を受けました。この枠組のもと、生徒たちは探究心を培い、学問への意欲を深めながら、主体的かつ論理的に課題解決する力を日々養っています。

また、学校行事や部活動など多彩な活動を通じて、多くの仲間と協力し、自ら考え、行動する力を育むことで、生徒一人ひとりが充実した高校生活を送ることができる環境が整っています。そして、創立 100 周年という節目まであと２年を迎え、長い歴史と伝統を尊重しつつ、未来の教育に向けた歩みを進めています。生徒たちの努力や可能性が溢れる様子を見つめる中で、さらなる成長への期待と確信を抱くとともに、挑戦を続ける姿に心を動かされる毎日です。校長として、彼らが存分に力を発揮できるよう、全力で支援をしていく所存です。

さて、令和８年２月に文部科学省から「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）～2040 年に向けた『N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想』～」が示されました。この方針は、AI 技術の進化や少子化社会に対応した人材育成を目的とし、その改革の柱の１つとして「高校ごとの特色の強化」が挙げられ

ています。本校のこれまでの教育活動は、この方針の方向性と一致しており、未来の変化に柔軟に対応しながら、特色をさらに明確化し掘り下げていくことが求められています。これを実現するためには「歴史と伝統」という教育資源が欠かせないものとなるでしょう。これからも本校を担う若い世代が、この輝かしい歴史を受け継ぎ、さらなる飛躍へとつなげられるよう、尽力してまいります。

東京理科大学は、2031 年に創立 150 周年を迎えます。その歴史と伝統が教育や社会に果たしてきた役割の大きさを、私自身、強く実感しています。私も卒業生の１人として、この輝かしい伝統を大切にし、受け継ぐ責任を胸に刻みながら、教育に携わる者として学び続け、新しい時代にふさわしい教育を追求していくことを使命と思っています。

鎌倉高校の挑戦と発展、そして高校生たちが描く未来が、皆さまにとっても刺激となり、広く共感を得られることを心から願っています。今後とも変わらぬご支援をいただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

☆　★　☆　★　☆　★　☆　★

「学校教育に携わって」

千葉県立若松高等学校
元校長　佐藤　仁
（S59 理学部・化学科）

１．学校教育とのかかわり

私は 1980 年から４年間、理学部第一部化学科で学びました。そして 60 歳で定年退職するまで、高等学校（全・定、普・商）理科教諭、博物館上席研究員、教育庁指導主事、中学校・特別支援学校・高等学校管理職を務めました。それぞれの職で充実した日々を過ごしました。

２．コロナ禍の経験

定年退職の約１年前、新型コロナウイルスが出現しました。退職間近に、それまで当たり前に行ってきたことができなくなり、新たなそして不本意な取組をせざるを得なかったことは残念であるとともに、生徒・保護者・教職員等に申し訳ない気持ちで一杯です。そんな中で関西方面修学旅行を事故なく行うことができたことは、嬉しいことでした。

ヨーロッパでペストが猛威を振るったのは 1347 年から４年間といわれています。コロナ禍を経験して、この４年間はいかに長く様々なことがあり、それを解決するには大きな労力と精神力を必要とし、ここに生きた人には大変なことであったと認識させられました。

３．学校設定科目「サイエンスコミュニケーション」の導入

現勤務校では、将来保育士等を目指す生徒に対応する保育コースに理科の学校設定科目「サイエンスコミュニケーション」を導入しました。導入に当たっては、「科学系博物館におけるコミュニケーションサービスに関する海外先進施設調査」のためにヨーロッパの科学館や関連施設を訪ねた経験が根底にあります。科学の専門家にはその面白さや諸課題を人々にわかりやすく伝え、ともに考え意識を高める「サイエンスコミュニケーション」の力が求められます。London の DANA centre にある dcafe でのサイエンスカフェは、当時の世界で先進のサイエンスコミュニケーションの場であり、そこを訪ね研修しました。園児に科学のこと、その面白さや魅力を伝える力を育てるために導入した科目がサイエンスコミュニケーションです。生徒自身が科学を楽しいと感じることが前提にあります。今後の大学の動き、新たな学習指導要領では理数分野の充実、女子学生の増加を目指す方向性が見られます。この視点からもサイエンスコミュニケーションは科目設定のみでなく、児童生徒に是非体験させたい活動と考えます。

事務局よりご連絡・お願い

１．理窓教育会事務局について

理窓教育会事務局は、PORTA 神楽坂 6 階の理窓会事務局内に置かれています。ただし、教育会専属の事務員がいるわけではありませんので、ご連絡等は郵送でお願いいたします。なお、お急ぎの場合は、下記支部長等の連絡窓口にご連絡ください。

《書面での連絡先》

〒162-0825 新宿区神楽坂 2-6-1
PORTA 神楽坂 6F　理窓会事務局内
東京理科大学理窓教育会　宛

《支部長等の連絡窓口》

総務担当　松原秀成
hidenari.matsubara@gmail.com
編集委員長　松本　明
aki_matsu@mail.dendai.ac.jp

２．理窓教育会ホームページのご案内

「理窓教育会」と入力すると開きます。あるいは、下記のアドレスを入力してください。

http://risoukai.com/educ/

「東京理科大学理窓会」のホームページにも「理窓教育会」に関連する情報があります。

３．事務局からのお願い

昨年度まで、年２回会報を発送していましたが、いよいよ経費削減のため、今年度から春号は郵送、秋号はホームページ掲載となりました。ご了承ください。

重ねてのお願いとなりますが、会員の皆様の会費の納入をお願いいたします。

４．会費の納入方法

【送金方法に関するお願い】

赤い振込用紙をお使いになり、ゆうちょ銀行で送金をお願いします。窓口 203 円、ATM 152 円の手数料が理窓教育会から徴収されております。通信欄に、

「理窓教育会本部会費　令和８年度分」

と記入していただき、卒業年・学部・学科も記入していただいて 1500 円を納入してください。東京支部の方は、東京支部会費（1500 円）も併せて納入してください。（東京支部の方は合計 3000 円）

赤い振込用紙がお手元にない場合は、会計担当の平岡まで連絡をください。

【各支部会計担当者へのお願い】

各支部の活動時に会費を集金した場合、納入者の住所・氏名の一覧表をメールで会計担当まで送っていただけると、会報をご自宅にお届けすることができます。会員の皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

なお、郵便払込取扱票の口座番号などは、次の通りです。

（口座番号）00160-9-715349
（加入者名）東京理科大学理窓教育会

会計担当理事　平岡　盛仁（S57 理・数）
Email：m.hiraoka@rs.tus.ac.jp
Tel　：03-5228-7335

▲ 編集後記 ▼

理窓教育会報第 68 号をお届けいたします。お忙しい中、誌面総会等でご協力いただいた支部長の皆さん、原稿や記事をお寄せいただいた皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今回から秋号はホームページ公開となります。どれくらいの皆様が目にしてくださるのか不安ではありますが、いろいろな世代の皆様に楽しんでいただけましたら幸いです。特に教育界では、横の連携や斜めの関係が重要になると思います。同窓生の存在は大きな力になるでしょう。何か深掘りしたいことがありましたら、事務局宛にご連絡ください。情報提供もよろしくお願いいたします。

今年は、10 月 25 日（日）に若手教員ネットワークの研修会・懇親会があります。ホームカミングデーも 11 月 1 日（日）に開催されます。そういったチャンネルを活用して、繋がりを深めていっていただければ幸いです。これこそが本学の強みであります。

話は変わりますが、9 月は台風等の大雨により、大きな被害を受けた地域があちこちにありました。心よりお見舞い申し上げますとともに、早期の復旧をお祈りいたします。学校の中心として働かれている方々には、気象状況が学校行事の運営に大きく影響し、悩ましい判断に迫られることがあったかと思います。情報収集や連携を充実され、ますますご活躍されますようお祈りいたします。

引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

編集担当　松本　明（S57 理・数）
メルアド　aki_matsu@mail.dendai.ac.jp

《ホームカミングデー》　2026.11.01（日）
神楽坂に集まりましょう！
ホームページから事前登録をしてご参加ください。楽しい企画満載ですよ。

《第 118 回新年茶話会》　2027.01.09（土）
祝賀会　13:30～14:45　懇親会 15:00～17:00
会　場　ホテルメトロポリタンエドモント
会　費　12,000 円
こちらも、奮ってご参加ください。

理窓教育会　支部別会費納入数

県名	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	県名	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
北海道	1	1	2		滋賀		1		1
青森					京都				
岩手	4	3	4	2	大阪				
宮城	4	2	3	1	兵庫	1	1	1	
秋田	16	12	17	4	奈良				
山形	1	1	1		和歌山				
福島	1	1	1	1	鳥取	2			
茨城	4	3	2	1	島根				
栃木		1	2	1	岡山	2			2
群馬	1		1	2	広島	31	24	30	3
埼玉	44	17	17	5	山口	1	1		
千葉	20	1	21	21	徳島	1	1	1	1
東京	52	43	50	37	香川				
神奈川	9	10	14	9	愛媛				
山梨	1	1	1	1	高知	1	1	1	
長野		2	1	1	福岡				
岐阜	1	2	1	1	佐賀	1	1	1	
静岡	6	4	3	2	長崎				
愛知	1		2	2	熊本		1	1	1
三重	1	1	1		大分				
新潟	2	1	3	2	宮崎				
富山	2		2		鹿児島	1	1	1	
石川			2		沖縄				
福井	2	4	1	1	合計	214	137	188	102

令和 8 年 8 月 31 日現在

祝 ノーベル化学賞受賞　東京理科大学　砂合　憲三（そあい　けんそう）名誉教授

スウェーデンの王立科学アカデミーは、10 月 7 日、今年のノーベル化学賞を東京理科大学名誉教授の砂合憲三氏に贈ると発表しました。フランスのアンリ・カガン先生と同時受賞です。化学賞は「科学の分野で最も重要な発見または改良を行った人」に贈られます。今までに延べ 200 名が受賞され、女性は８名だということです。2025 年に北川進さんら３名が受賞したことは記憶に新しいことと思います。授賞式はノーベルの命日に当たる 12 月 10 日にストックホルムで行われます。

会報の編集作業が終わったところでビッグニュースが飛び込んできました。急遽、記事にさせていただきました。本学名誉教授の受賞ということで本当にめでたいことです。心からお祝いを申し上げます。皆さんの中にはお世話になられた方もいるのではないでしょうか？ 是非とも思い出話などお寄せください。